

JF職員が見た中国

タクシーの乗り方、指南します

高橋耕一郎 [たかはし こういちろう]

在重慶日本国総領事館領事（ジャパンファウンデーションから出向中）

「日本でタクシーに乗るときは、ふつう後ろに座ります。いきなり助手席のドアを開けて乗り込んだりすると、運転手さんに、強盗か？と勘違いされるかもしれないので、気をつけましょう」。そういうと教室がざわめいた。

当地大学の日本語学部学生を対象に、日本の生活や文化事情について、日本語で話してほしいという講演依頼を受けた。そこで、生活習慣の違いについて話すことにした。講演後、学生からの反応によると、このタクシーの話が意外だったという。

中国のタクシーでは、乗客が一人の場合、客はほぼ決まって助手席に座る。「お互いの身の安全のため」とか、「昔、後部席は乗り心地が悪かったため、高級幹部は前に座った。その名残」とか、理由は定かではない。なぜ助手席に客が乗るのかと思うのが日本人の反応であろう。

中国人から見たら「変」な日本の習慣がある。もちろん、どちらが良い悪い、ということではない。それぞれに事情がある。違うということを頭に入れておくだけで、互いに誤解や齟齬が生じることを、少しでも防げるのではないか。

お互いに知らないことは、まだたくさんある。同じと思う錯覚がある。それを少しでも埋めていけたらと思っている。